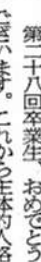


洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL (463) 3281 (代)
印刷(株)吉川印刷工業所

HⅢA担任
恒藤 聖

第二十八回卒業式が去る二月八日、厳寒な霧雨の中、大講堂で行われた。村田校長から一人一人卒業証書を受けとり、握手を交わした卒業生は喜びの内にも一ヶ月後に控えた入試を思つてか一様に緊張した表情で洛運に別れを告げていった。



として、社会の一員として自立される喜びがいかに大きいかが解ります。が、国際青年の年として若い諸君に何が期待されているかを考えて下さい。

先ず、本学園の高校を終了されるに際して本学園の建学の精神がいかに日常生活に活用されたか、

だからです。また、学校は次の世代の担い手となる健全な後継者を育てなければならぬのです。

誰もが知っている様に、人間は不幸にして、自己中心に成り易く、又自先の成功に走り易く、他人の為に動く人格になることが如何にむづかしいか、現代社会の諸問題から考えさせられます。幸い

りて摘み、扱いました。
しかし、つい先日、この流れが
コンクリートの、直接で仕切られ
た、ミツに変わってしまったので
す。コンクリートになれば、何か
と便利にはなるのですが、
今、私は、又も、何か、大きなも
のの失った気がしています。

世の中の文明が、年々、進んで
くる時、コンクリートの様な人工
的な、乾いた、冷めたさが、身近
に、ひしひしと、迫ってきます。
気のせいかな、学校でも、コンク
リートジャンゲルの冷たさを感じ
る度合が増える来た様にも思いま
す。都会のコンクリートの中で、

共通一次の前日は、てんやわんやであった。下見の爲の地図作り。富岡先生がウンウン唸りながら線を引く。目印がないと分らないのじやあないかと横からチヨツカイを出す。どうしろというんだ。「明石さん」と書いとけば……うで、書き込む。

屋敷ぎにならず、例年のように「螢の光」を歌いながら退場する君達はやや上氣した顔には、それらの経過したものを見ることができた。長い高校生活の最終符でである。クラマツクスであった。流星は、諸君の母校であり、ふる里である。この次は、君達がバネル作りの為に駆けつけてくる日を榮しみにしている。

それで皆体調が悪いし声も思うように出ないし……。」「彼らは何も特別な水を飲んでる訳ではない。彼らがコンディションを壊した原因は、実に我々が日頃吸っている空気を飲んでいる気である。スパーマーケット等に行くところでは「きれいな水」のバ

ない速さで進んでいるので気づくはずもない。しかし、工場廃水、生活廃水の中に含まれる有毒物質と言われるものは確実に蓄積されていく。将来我々の健康に何も起こらないとも限らない。当たりの「水」や「空気が」人の体を

おびやかすのかと思うと何か肌寒

い思いがする。

倫理観の基礎を作ったばかりです。これからその倫理観に基づいて、主体的に、自立的に真に生きるのです。これから人格としての生活の始まりです。

神は存在するものを、すべて愛して下さいます。造られたものは何一つ愛み嫌われません。この様に私達の生命を愛し、保護されることを約束されています。自分の生命を大事にして下さい。

毎朝の様に、散歩している小徑の脇に、幅は一米にも満たない小さな流れがあります。この川は、近くの農家の方々が、季節、折々に、底をさらえ、草を刈り、維持されていきました。夏には、子供達れアスファルト道になるのでしょが、小魚やサリガニを追っています。今年の七月正月も、私は、七くさの草を、この畠中の川の周りで、送り火の宵でもないのに思い出してしまいました。

魚は泳がず、せりも消え、コンクリートの葉がされ、今朝歩いてあの凸凹の、黒い土の小徑も、何れアスファルト道になるのでしよう。私も又、その適に慣れ、この失ったものを、忘れるかも知れません。

思いきり覺れまわつた体育祭、大半の時間を脚本とその原本を読むのに費やした研修旅行……。A君、N君、そしてK君、一人一人、校長と握手をしていく。勉強のみならず君達は華やかに活動をしてきた。そしてそれが、今は懐かしい想ひ出となつて、私達の胸の中に何ものにも代へ難い宝物として、いつまでも生きつづけていくと、心で信じてゐる。

当日は寒かつた。なぜかその日だけ大変な雪であつた。大学の校門で言葉掛けしては、なにが懐かしい気持ちが出来てきたのである。やがて、人氣のきつたキャンパスに向かつて、頭張れよ、あ、と声にならない声を口を口にしつづ、立ち去り難い試験場を後にしたのである。

「ネーシー」の夫が心臓をうに彼を
を見つめていた。どうしたか、
と尋ねると、彼らのコンディシ
ンが最悪なんです、との答え。
「ツアーのスケジュール（一ヶ
月間に全国十一都市・二十数所
を回った）も大変ハードなんで
す、それ以上に日本ほどとも空
気や水が汚なくて、スイスと比べ
ものにならないぐらいなんです。そ
れらがかえって「公害」という
ものに對し何らかの免疫が我々の
心に生まれたのかも知れないし、
交通事故や殺人事件の様なた
だの日常茶飯事になったのかも
知れない。しかも水俣病などの
ように目に見え、重大なものな
らともかく、水や空気の汚染は
目に見え

にあたり中心であったり、
目先の自分だけの成功のみを考へる人格であつてはなりません。諸君は人間の生命の尊厳を理解する者として、人類の最も希望する和確立の基礎作りの為に學問に勉んで下さい。諸君は中学・高等等校生活を通じて人間として正しい

小さな流れ

H 眞B 担任 小川 仁 美

集立ちの時が来ましたね。また、
若い諸君、一人ひとりがこの広い
社会の中に、自然の中に、力強
の眺望を、数軒の住宅と、大学の

卒業證書を受け取る者の名前を
読み上げているとき、諸君達と共に
過ぎた日々が出来事が次々と目の
前に浮かんで来た。「時の石」
でグラムプリを手にした文化祭、
やる。パネルが出来上る。マラソ

る。ボーイソプラノのヨードルは期待以上に素晴らしいものであったし、日本語で曲名を紹介してくれる等サービス精神の旺盛な所も見せ、我々をすっかり楽しませてくれた。

しかし、舞台の脇では日本側コウ言葉が大いに叫ばれるようになってきた。

昭和四十年代から「公害」とい

現は、科学技術の進歩のお蔭で、国際交流は易しくなりました。その結果、特に日本は世界的な発展をなして来ましたが、しかし、その反面、国民的・人種的・宗教的エゴイズムの為に、一歩もやまれば人類の死滅の危機になる可能性があります。この様な社会

した。社会環境や国難が繁栄を上げ
 てしまった現実を看過するわけに
 もいかない。君達はどうした事態
 を見据えて、自分の進路を見定め
 て行かねばならなかったのでは
 ある。これから始まろうとする大学
 生活は、今までの高校生活とは全
 然ちがひがある。

卒業式の日に想ふ

衣笠

昨年七月、スイスカ
ら合唱団が来日したこ
とは記憶に新しいこと
だ。彼らは七月八
日成田に着き、東京・
仙台・喜多方(宮城県)で公演を
行い、本校にやってきたのであ
る。汚染は少しづつ進んでいる。

ツクが店頭に並んでいるのをよく
見かける。飲み比べるとわかる
が、味において水道の水とは比較
にならないぐらいいそうである。
そんな水でも、数年前までは蛇口
をひねると出てきた所が多かつ
た。汚染は少しづつ進んでいる。

して、いかに開明心がゆたかにならねばならぬ。この様な倫理観に基づいて、正しく挑戦することが世界立ての確立になることと確信してゐます。諸君もこの期待に応える様に、知的欲求と燃えるエネルギーを正しく活用される様努力して下さい。

重なものであった。否が応でも係らねばならない生徒と保護者とのより身近な交わり、どうにも避けては通れない大学受験という柵こうした事例に直に携わることにする。

この感得は、考えさせる様々な素材を提供してくれたと思う。しか

にも数からである。不思議なことに、自然は貪欲なまでに豊かなものであり、如何なる思想をも従容と受け入れてくれるものである。

時を隔てて遠く過ぎ去ってしまった私自身の高校時代と想い比べ

出の一番重要な部分を占めることになりそうです。面白おかしくもない講義をや々々ままあ、くそまじめな顔でしゃべって来たものだと思いますが、諸君もよく我慢して聞いてくれたと思います。数学は透明な、他のものに煩わされない美しさを持っているのですが、それによって、我々を取り巻くいろいろな

高「から今度はず任として君たち
の付き合いが始まりました。新
しい仲間を加えて世帯が大きくな
ったこの学年ですが、しほはくは
お互いがよく理解できず新しい人
たちとの間に妙な空気が漂って私
たち担任をやきもきさせました。

て、出来たての卒業アルバムを眺
りめぐります。君たち三八名ひと
りひとりがとても頼もしくみえ
ます。洛星でのこの出会いが財障
にして強く生き下さい。また会
える日を楽しみにしています。

對してだけでなく、若人を指導する大人にもその責任の重大さを訴へてゐると思ひます。二十一世紀を担う諸君の手中には現代社会公諸問題、特に政治・経済、色んな思いに對して正しい解決を成す為の社会参加の基礎作り、科学技術の進歩により人間生活を豊かに

いすれにしても、君達を送り出す身で艦能を取らねばならなくな

その時、そこには名状し難い感慨があつた。私は私なりに、その無量を靜かに噛み締めていたと思

う。

私にとつて、直に担任を受け持つという、この初めての体験は貴

願わくは、感受性が最も豊かに

羽ばたくこの時期に、自分のもの

の見方、考え方の基となるものを

掴んで欲しい。それは自分の知能

を開発する原動力となり、創造性

のは、14期生のときでした。それから、22期、26期、そして28期と偶数の、しかも等比数列的に間隔が縮まってゆく期の卒業生を送り出しました。偶然とはいえ、この数の配列に驚いています。それも28期の諸君が収束してしまふと思うと、諸君との出会いは私の思い通り、諸君に望むことは、学問の世に

さを知つてらちうと心掛けた積りでした。伴奏をしてくれたのは中村元信君、石田豊君、下野太郎君といふ名手揃ひで、洛星にはいつもくれた才能の持主が多いのですが、この學年にはとりわけこの人たちのような人材がいてくれたので私も大いに助かりました。

ではさらに各クラスの中で共に生活するうちに新しい友人関係も生れ、研修旅行、クラブ活動、学生会活動として文化祭・体育祭など多くの場で各人の持つ力を認め合ひ、喜びも苦しみも分かち合える仲間同志になったのでしよう。私は今やつと落ついた気分になつた。

にして、今年度は国際青年の年として国連は希望とエネルギーの旺盛な世界の若人に、国際性豊かな人格をめざして努力することを希望しています。この精神は、若人に

卒業生に送る言葉が欲しいとい
う。書きたいことは山ほどあるよ
うで……。所詮、言葉は言葉。言葉
が生きて意味をなすか、死して意
味をなさぬかは、受け止める側に
あるのだと思うと、あまり……。た
やうなものだ。つまり、自分自身

部にでもして欲しいものです。

諸君に期待する

HⅢC担任 富岡 鐵平

私が最初に卒業学年を担任した三に旅する機会に恵まれました。今

中であつたことをいくつか思い出しています。君たちとの付き合いは中一の一の聖堂でラパディ先生、北大路先生と一緒に宗教を担当したことに始まりました。このときは出来るだけ沢山の聖歌を君たちに教えることと、歌詞の意味をよく考えながら唱へることの大事

グランプリー・アカデミー同賞
落星の入試」で展示特別賞、合唱では二つのクラスが優良賞と輝かし、成果をあげたのです。これは準備の時から本番まで誰かれの区別なく協力し合い、一つものを作りあげたため情熱をかたむけた結果だったと思います。高二

卒業生
記念号

担任より
卒業生へ

受難免を体たたくて一寸、忘
ていたものを、間に押しやっていた
ものが、諸君にはありませんか。
調いとか、何が暖かいものを、
自然と兵に取り出し、緑色にでも
膨らませ、おこなになる装いの一
部分か、

自然か人間の道に、前の方
の人に、一層の輝きを加え、諸君
を一段と素晴らしいおとなに、輪
にふさわしく磨かれた人に、仕上
けてくれるものと思います。

御々嫌よう！

卒業生へ

H.W.E 担任 則武 隆

二十八期生の諸君卒業おめでとう。しかし文化祭での君たちはそんなとう。私は今君たちとの出会いの「心配をまことに「アベルの告白」で

HWE担任 則武 隆

二十八期生の諸君卒業おめでと。私は今君たちとの出会いの中であったことをいづくか思い出しています。君たちとの付き合いは中一のとき聖堂でラパティ先生、北大路先生と一緒に宗教を担当したことに始まります。このときは出来るだけ沢山の聖歌を君たちに教えることと、歌詞の意味をよく考えながら唱へることの大事さを知ってもらつと心掛けた積りでした。伴奏をしてくれたのは中村元信君、石田豊君、下野太郎君といふ名手揃ひで、洛星にはいづもかくれた才能の持主が多いのですが、この学年にはとりわけこの人たちのような人材がいてくれたので私も大いに助かりました。高一から今度は担任として君たちとの付き合いが始まりました。新しい仲間を加へて世帯が大きくなつたこの学年ですが、しばらくはお互いがよく理解できず新しい人たちとの間に妙な空気が漂つて私たち担任をやきもきさせました。しかし文化祭での君たちはそんな心配をよそに「アベルの告白」でグランプリ・アカデミー受賞、「洛星の入試」で展示特別賞、合唱では二つのクラスが優良賞と輝かしい成果をあげたのでした。これは準備の時から本番まで誰れかこの区別なく協力し合ひ一つのものを作りあげるため情熱をかたむけた結果だつたと思います。高二ではさらに各クラスの中で共に生活するうちに新しい友人関係も生れ、研修旅行、クラブ活動、生徒会活動として文化祭・体育祭など多くの場で各人の持つ力を認め合ひ、喜びも苦しみも分かち合へる仲間同志になつたのでしよう。私は今やつと落つた気分になつて、出来たての卒業アルバムを眺めてゐます。君たち三八名ひとりひとりがとても頼もしくみえます。洛星でのこの出会いを財庫にして強く生き下さい。また会える日を楽しみにしています。

たわけですが、僕としては特に

HⅢC 船越 直人
 学校生活にも慣れ始めて外へ目
 っているのが反問しなかった。し
 かしの三年間で確かに変わっ
 々々発展することを願って筆を置
 学校生活にも慣れ始めて外へ目
 っているのが反問しなかった。し
 かしの三年間で確かに変わっ

（北地方）に中学校をたてたので、区切りをつけ、国に帰って一九四七年に破壊され、そのあから命じられた最後の仕事に



植井先生

の頃で高等学校では火炎ヒンが飛ぶ、京大は封鎖されてしまうとい

此事の余りの多さに二度びっくり
 した事です。私の学生時代に母が顧問
 藤田 行男先生（英語科）